

LOGI oven series

ロギ オープンシリーズ

LOGI oven # 1010

LOGI soapstone+oven # 1018

工事説明書

工事される方へのお願い

- 工事の前に、この「工事説明書」をよくお読みのうえ正しく工事を行ってください。この「工事説明書」は、工事終了後に必ずお客様へお渡しください。
- 工事説明書に記載された方法以外の工事・分解等を行われた場合に伴う、ストーブおよび建築の不具合・破損については保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規定によって修理いただくようお願いいたします。
- 建築物への開口作業や支持金具を固定する下地等に関しては建築業者とよくお打合せの上、行ってください。
- 工事に従事する方は、労働安全衛生規則にしたがってください。設置場所の状況や機器（重さや形状）、煙突設置の高所作業時等で、けがをされないように十分注意してください。
- 据え付け完了後、P28 チェックリストに基づいて再確認を行ってください。
- 後の保守点検に必要な情報として設置図面や使用した部材の情報は設置記録として保管してください。



目次

1. 安全のために必ずお守りください	2
2. 開梱	
開梱の際の注意	8
付属品の確認	8
パレットの外し方	8
3. ストーブの移動と組立て	
移動の準備	9
ロギ オープン(スチール仕様)の移動と設置	10
ロギ オープン(スチール仕様)の組立て	11
ロギ ソープストーン+オープンの移動と設置	14
ロギ ソープストーン+オープンの組立て (ソープストーンの取付け方)	16
4. 本体の設置	20
5. 燃焼室の各パネル、付属品の取付け	22
Option 灰キャッチャーの取付け方法	22
6. 給気用ダクトの取付け方法	23
7. 煙突の設置	26
8. チェックリスト	28
9. 本体寸法図	29

1 安全のために必ずお守りください ⚙️

表示について

 危険	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 一般的な禁止	この表示は、「禁止」されている内容です。
 一般的な指示	この表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

危険



禁止

お客様による据え付け移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。
設置については本書の内容の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。
これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。



禁止

屋内排気禁止

屋内に排気すると煙が屋内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

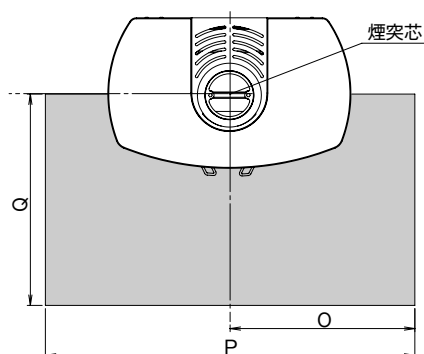


指示

設置の床を必ず保護する（炉台）

ストーブを設置する床は、ストーブの重量に長期間耐えられる水平かつ、安定している場所を選択した上で、
図1の範囲を不燃材料で有効に保護してください。
床の保護には不燃材料（金属を含む）で施工してください。
レンガやタイルを用いる場合は隙間が生じないように目地をモルタルでつめてください。
床の保護を怠ると、燃えた灰の落下や輻射熱で火災の原因になります。

図1 床の保護範囲



(単位:mm)

モデル名	側面O	幅P	奥行きQ
ロギ オープン	584	1167	668
ロギ ソープストーン + オープン	584	1168	668

N=床保護後端から煙突芯まで。



禁止

次の場所には据え付けない

※火災や予想しない事故の原因になります。

- ・ 水平でない場所、不安定な場所
- ・ ストープの上に物が落下する場所
- ・ 可燃性ガスや液体を保管、または溜まる場所
- ・ 乾燥室、温室、飼育室など、人がいない場所
- ・ 避難口など、避難の支障となる場所
- ・ 付近に燃えやすい物がある場所
- ・ ほこりや湿気の多い場所
- ・ 化学薬品を使用する場所
- ・ 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入れ口のない場所。または換気の行えない場所



指示

ストーブの燃焼に必要な空気量を確保する

- ・ ストープを設置する部屋の壁等、ストーブの燃焼に必要な空気量を不自由なく取込めるように屋外へ直接通じる給気口を設けてください。
- ・ 屋外側の給気口の端部はゴミや雪などでストーブの燃焼が妨げられない場所に設けてください。
- ・ ストープを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取り込めないと、不完全燃焼がおこる他、一酸化炭素を含んだ煙が部屋に漏れて、生命に危険をおよぼすおそれがあります。



禁止

換気を行えない場所には設置しない

換気を行えない場所に設置するのはおやめください。屋内に煙が溜まり危険です。



禁止

家具、カーテン、寝具、薪など可燃物近接禁止

家具、カーテン、寝具、薪など、燃えやすいものをストーブや煙突に近づけないでください。ストーブの熱気で発火して火災の原因になります。

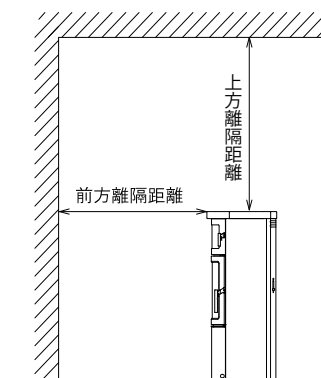


指示

可燃物との距離を離す

ストーブ、および煙突から周囲の壁・天井・柱などの可燃物までは、火災予防上の安全な離隔距離を設けてください。火災の原因になります。

図2 ストープ前方・上方から可燃物までの離隔距離



前方離隔距離

(単位:mm)

モデル名	メーカー指示	告示第 225 号
ロギ オープン	1300	2390
ロギ ソープストーン + オープン	1300	2403

上方離隔距離

(単位:mm)

モデル名	メーカー指示	告示第 225 号
ロギ オープン	750	1257
ロギ ソープストーン + オープン	750	1254

* 可燃物：家具、カーテン、寝具、薪などを含む



警告



指示

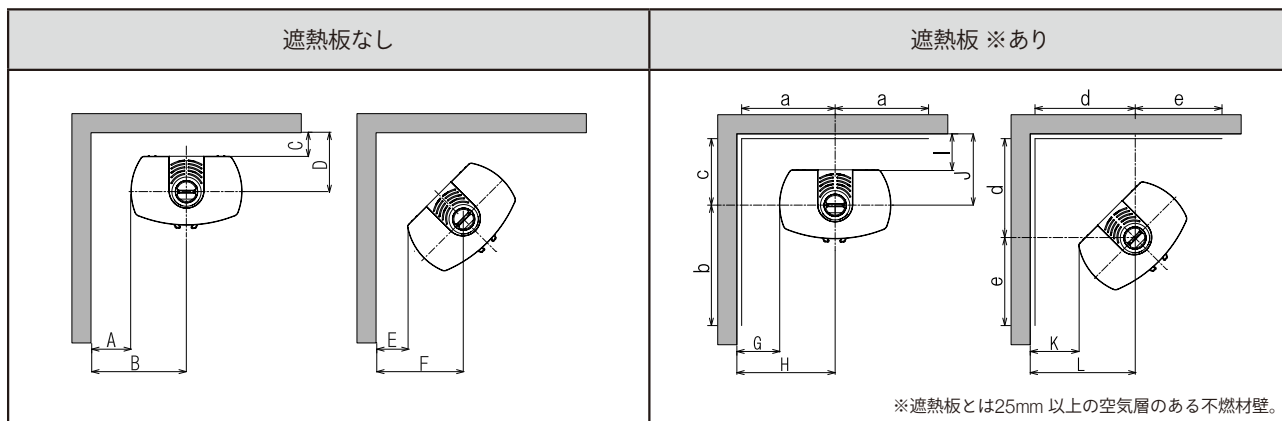
ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

内装制限の技術的基準に従う場合

ストーブを設置する火気使用室の仕上げは建築基準法に定められた内装制限の技術的基準に従い、壁、および天井(天井のない場合においては屋根)の室内に面する部分を、準不燃材料で仕上げてください。その上で、25mmのスペースによる空気の対流層がある特定不燃材料で作られた遮熱板の有無により、それぞれの離隔距離を確保してください。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし						
離隔距離						
モデル名	A	B	C	D	E	F
ロギ オープン	450	834	150	399	150	540
ロギ ソープストーン +オープン	450	834	150	399	150	541

遮熱板※あり						
離隔距離						
モデル名	G	H	I	J	K	L
ロギ オープン	150	534	150	399	150	540
ロギ ソープストーン +オープン	150	534	150	399	150	541
遮熱板の幅						
モデル名	a	b	c	d	e	
ロギ オープン	509	652	374	515	479	
ロギ ソープストーン +オープン	509	652	374	516	480	
遮熱板の高さ						
モデル名	a	b	c	d	e	
ロギ オープン	1392 (下部空気層 25 含む)					
ロギ ソープストーン +オープン	1405 (下部空気層 25 含む)					

警告



ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

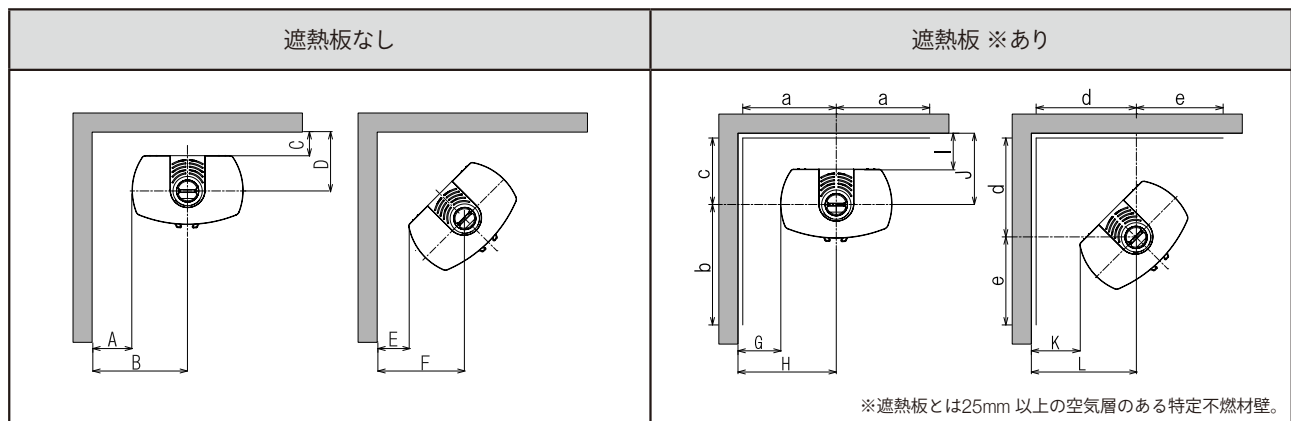
指示

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

国土交通省告示第225号に従う場合(内装制限の緩和措置)

内装制限の準不燃材料による仕上げに準ずる仕上げとして、ストーブによる熱の影響範囲(可燃物燃焼部分)に内装の仕上げ、および下地がかからないように離隔距離を確保してください。もしくはかかる範囲の内装仕上げ、および下地を、25mmのスペースによる空気の対流層がある、特定不燃材料で作られた遮熱板で保護し、必要な離隔距離を確保してください。告示第225号に従えば、熱の影響範囲にかからない部分の内装仕上げに木材を使うことができます。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし						
離隔距離						
モデル名	A	B	C	D	E	F
ロギ オープン	1247	1631	1583	1832	1583	1973
ロギ ソープストーン +オープン	1254	1638	1592	1841	1592	1983

遮熱板※あり						
離隔距離						
モデル名	G	H	I	J	K	L
ロギ オープン	416	800	528	777	528	918
ロギ ソープストーン +オープン	418	802	531	780	531	922
遮熱板の幅						
モデル名	※ a	b	c	d	e	
ロギ オープン	1575	2443	752	893	1362	
ロギ ソープストーン +オープン	1580	2475	755	897	1368	
遮熱板の高さ						
モデル名	a	b	c	d	e	
ロギ オープン	2120					
ロギ ソープストーン +オープン	2120					

※ a は側方に遮熱壁がある場合には H-25mm

安全のために



煙突から周囲の可燃物まで安全な距離を離す

指示

煙突から可燃物の間は図3に定められた火災予防上安全な離隔距離を設けてください。

特に貫通部は建築基準法に規定されていますので、図4 貫通部の詳細図のように囲い枠を設け、枠内は金属以外の不燃材料で防火上有効な処理をしてください。

離隔距離が不足すると火災の原因になります。

図3 煙突から可燃物までの離隔距離

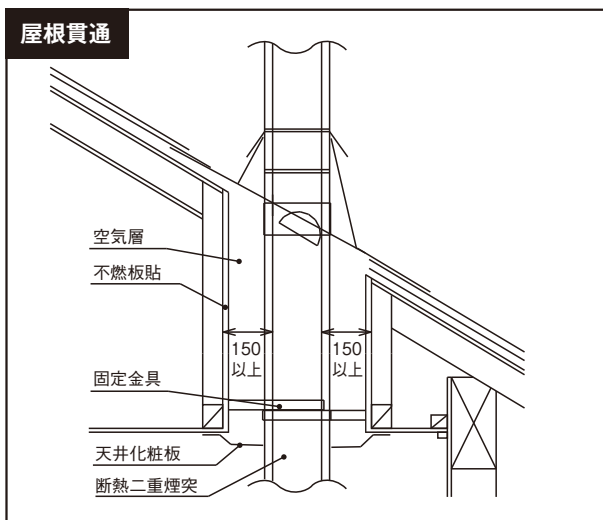
(単位:mm)

	開放空間	小屋裏・天井裏・床裏などの貫通	壁を貫通	天井
シングル煙突	※壁に25mmの空気層を設けた遮熱板を使用した場合、230mmまで離隔距離を削減することができます。	使用禁止	使用禁止	
煙突ヒートシールド + シングル煙突		使用禁止	使用禁止	使用禁止
断熱二重煙突				
断熱二重煙突 (自在管)		使用禁止	使用禁止	

お願い 貫通部は断熱二重煙突を使用してください。

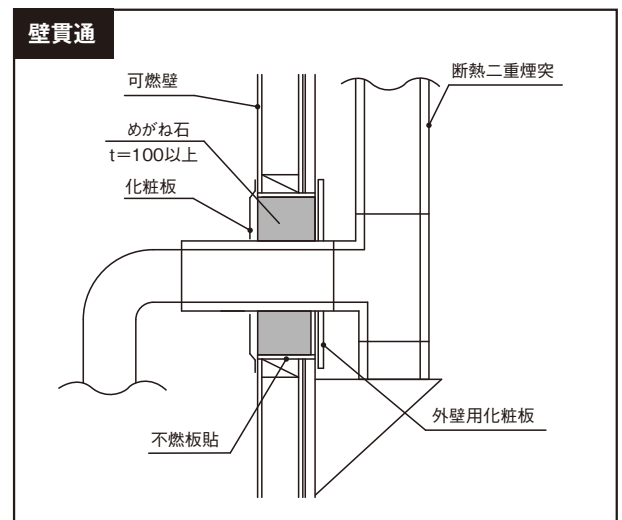
図4 煙突貫通部詳細図

(単位:mm)



※ 煙突が小屋裏、天井裏、および床裏などを貫通する部分は、断熱二重煙突の内側煙突より150mm以上の離隔を設け、防火上有効に被覆を行った囲い枠内を貫通させてください。

(単位:mm)



※ 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用し、めがね石の中に煙突の接続部を設置しないようにしてください。



屋根から煙突の高さを設ける

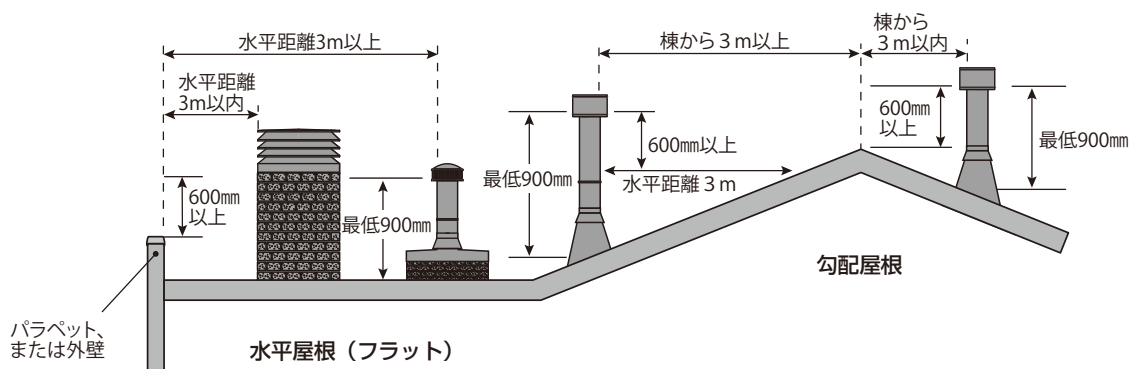
指示

煙突頂部の推奨

風向と屋根の形状から発生する風圧帯により、煙突頂部から逆流をおよぼす影響の防止策、また煙突火災時の燃焼防止として、弊社では米国防火協会（NFPA211）の基準を推奨します。

煙突頂部の推奨距離

煙突の高さは、屋根面から立ち上がる長さを90cm以上とし、その先端からの水平距離3m以内に建築物や障害物がある場合は、その建築物や障害物から60cm以上高くしてください。



建築基準法

- ・煙突の屋根上突出部は、屋根面からの垂直距離を60cm以上とすること。
- ・煙突の高さは、その先端からの水平距離1m以内に建築物がある場合で、その建築物に軒がある場合においては、その建築物の軒から60cm以上高くすること。



煙突を確実に接続

指示

煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないよう接続してください。
煙が屋内に漏れると健康に害をおよぼす他、火災の原因になります。

2 開梱

開梱の際の注意

お使いになる前に、製品の輸送中に生じたネジのゆるみや、外れなどがないかを調べてください。
梱包材は取り除いた後、適切に処分してください。

付属品の確認

付属品の内容を確認し、取付け方法に従い確実に取付けてください。

お願い 付属品に不備がありましたら、お手数ですが弊社までご連絡ください。

本体付属品

名称	数量
工事説明書(本書)	1
取扱説明書	1
保証書	1
お引渡し時確認書	1
薪ストーブを安全にご使用いただくために	1
あんしん点検のご案内、兼 所有者登録ハガキ	1
個人情報保護シール	1
パーツリスト	1
オープン温度計	1
グローブ(片手)	1
オープングリル	1
ツール(シャベル、火かき棒、ブラシ)	各 1
六角レンチ 2mm	1
着火剤	1

備品一覧

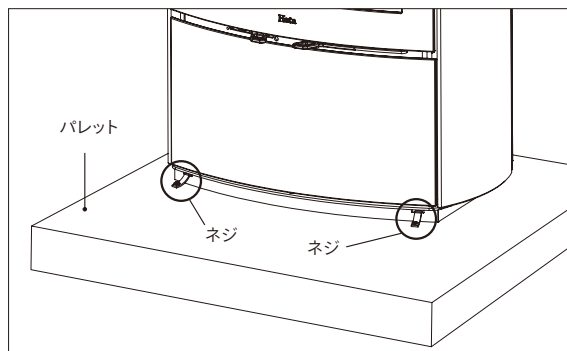
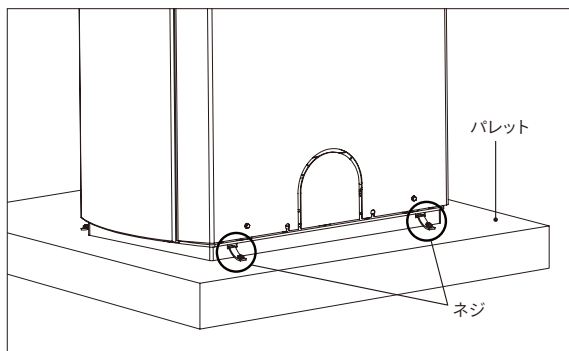
名称	数量
スターター	1
スターターリング	1
スターター用 M6フランジ付き六角ボルト	2
レッグレベラー	4
ファイバーロープ 53cm(口元用)	1
本体設置用プレート	1
ベンチレイテッドカバー(ソープストーンのみ)	1

オプション

名称	品番	取付け方
ベーキングトレイ(ロギ用)	50305	—
オープングリル(ロギ用) ※1枚は付属	00500303	—
レデューサー(給気用)	00500515	P23～
灰キャッチャー	20315	P22

パレットの外し方

搬送時、パレットに固定していたネジ(4箇所)を外します。外したネジは不要です。



注意 本体正面・背面下部に取付けられていた固定金具は地震対策として使用しないでください(地震対策P20、21)。

3 ストーブの移動と組立て

移動の準備

梱包を解いたストーブを移動する際には、破損しやすい燃焼室内の各パネルや、外れやすいストーブトップ、重量のあるソーブストーンをあらかじめ取外してから行ってください。

作業するにあたり

- 作業は必ず2人以上で行ってください。
- 作業時はすべり止めの付いた手袋を着用してください。

1 燃焼室の各パネル、バッフルパネルプロテクターを外す

パネルの取外し方法 …… 取扱説明書 P37「●パネルの分解・組み立て手順」に従い、作業を行ってください。

注意 パネルはバーミキュライト製で破損しやすいため、取外しは丁寧に行ってください。

2 オープン内からオープングリルを外す

3 灰受けドア裏のツールラックからツールを外す

各ツールは結束バンドで固定しています。ニッパーを使い、切り離します。

必要工具
ニッパー

👉 「ログ オープンの移動と設置」は、このままP10から進んでください。

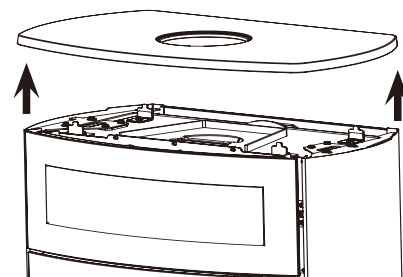
👉 「ログ ソーブストーン+オープンの移動と設置」は、P14から進んでください。

ロギ オープン(スチール仕様)の移動と設置

1 ストープトップの外し方

ストープトップを垂直に持ち上げ外します。

鋳造製ストープトップの落下による製品の破損を防止するため、運搬時は本体から必ずストープトップを外してください。取外したストープトップは、緩衝材などで養生をし、取扱いには十分ご注意ください。

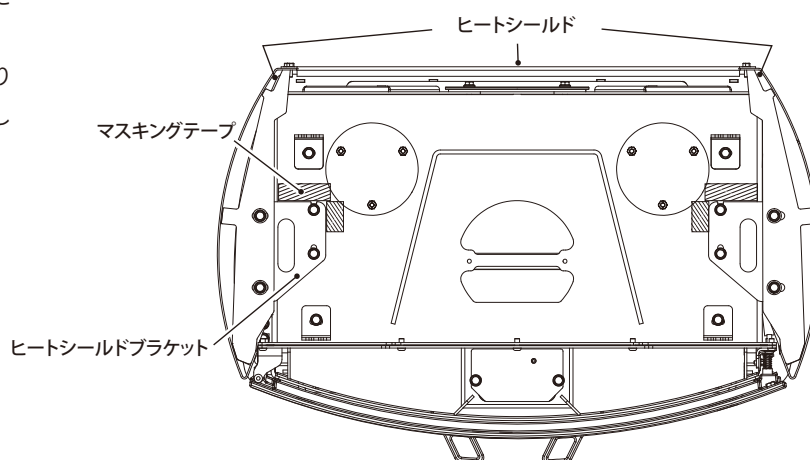


2 ヒートシールドブラケットの取付け位置に印をつける

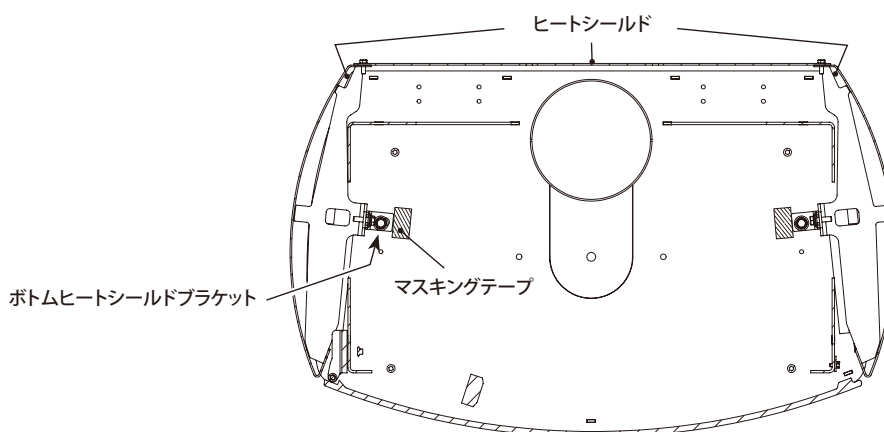
ヒートシールドブラケット、ボトムヒートシールドブラケットの取付位置に図のようにマスキングテープを貼り付けます。

こうすることで、移動中の衝撃などによりズレたヒートシールドを元の位置に戻しやすくなります。

上面図ストープトップを外した上部から



ボトムプレート上部から



3 ストープを移動し、本体を設置する

P20 **4 本体の設置** を参照し、作業を行ってください。

ロギ オープン(スチール仕様)の組立て

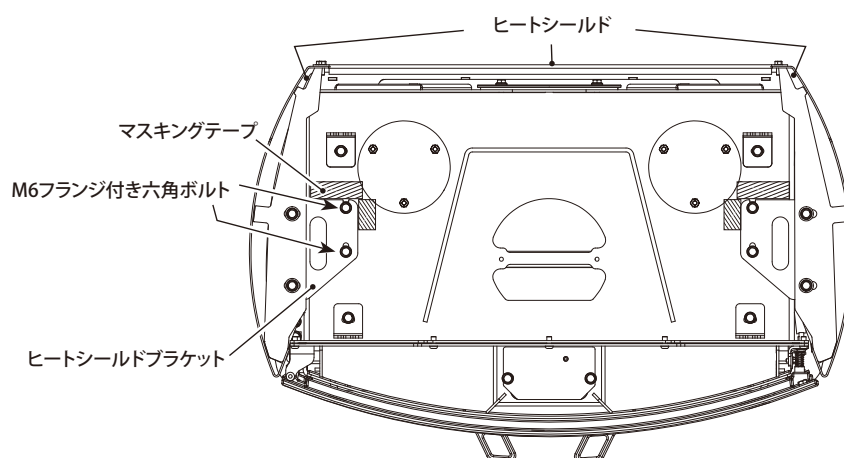
1 ヒートシールド、各ブラケットがズれていないか確認する

ヒートシールドを固定するヒートシールドブラケット、ボトムヒートシールドブラケットがマスキングテープの場所からズれていないか確認します。

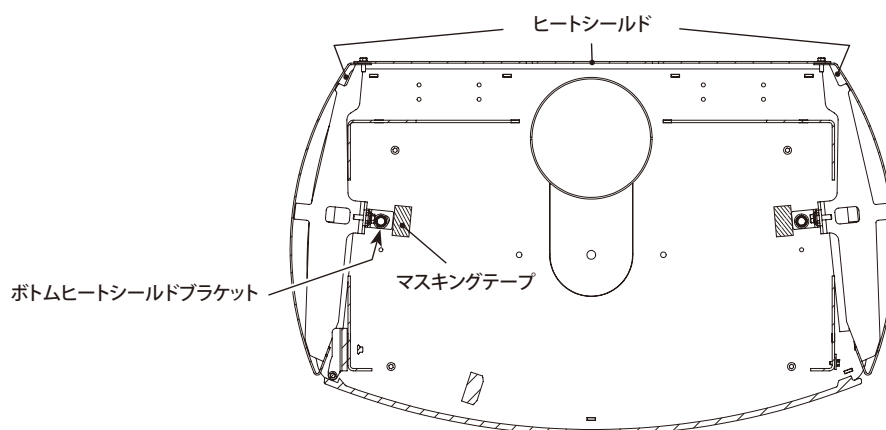
ズれている場合には、図のようにM6フランジ付き六角ボルトをゆるめて修正します。

正しい位置を確認したら、マスキングテープを外します。

上面図ストーブトップを外した上部から



ボトムプレート上部から

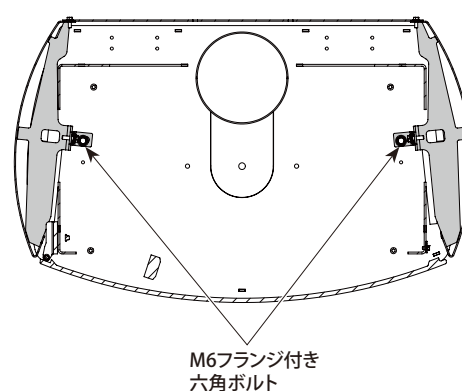
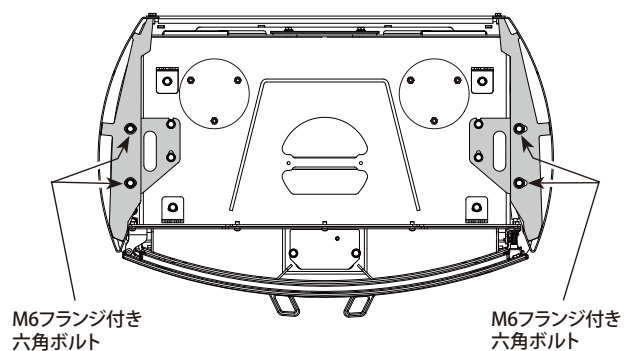
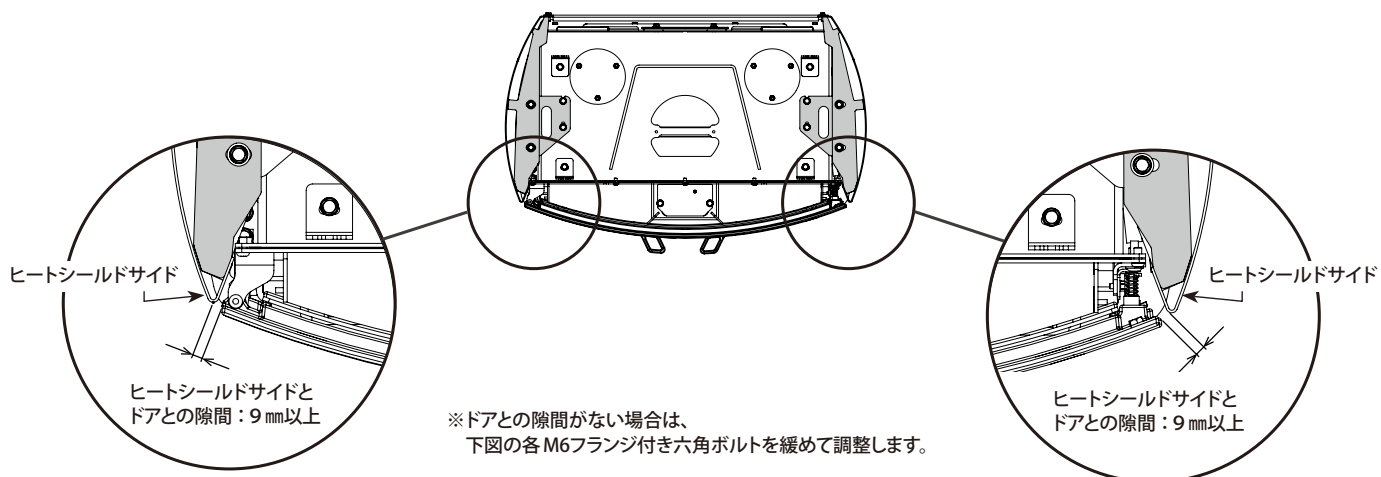


2

ヒートシールドサイドと各ドアの距離を確認する

各ドアがヒートシールドサイドに干渉しないか確認します。

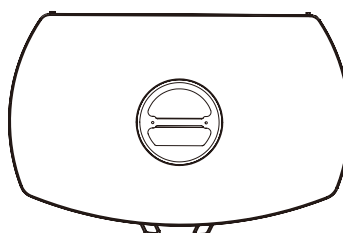
ヒートシールドサイドの上側、下側に下図のように隙間があることを確認します。



3

ストーブトップの取付け

ストーブトップの煙突開口に煙突を接続する際、周囲の隙間が均等になるように、円の中心を合わせてください。



ストーブトップ上部から

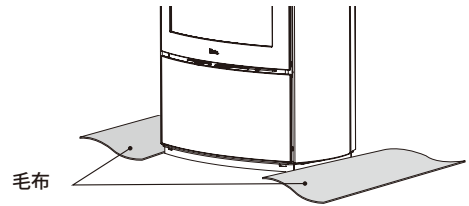
Memo

[illegible]

ロギ ソープストーン+オープンの移動と設置

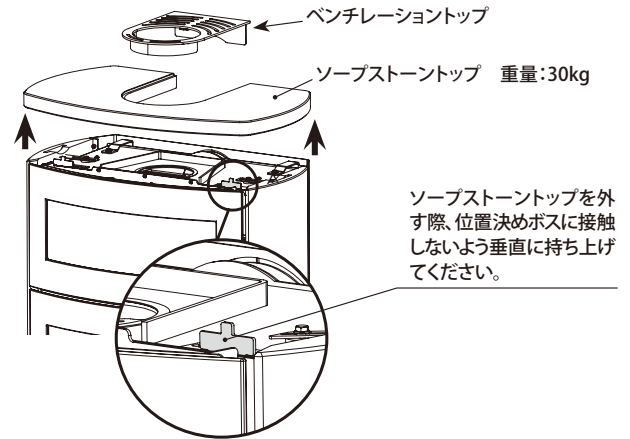
1 ストープ側面の床に保護材などで養生する

ソープストーンサイドを取外す際、誤って落下した場合の床のキズ予防、およびソープストーンのカケ防止のため、毛布などで保護します。



2 ベンチレーショントップ、ソープストーントップを垂直に持ち上げ外す

取外したソープストーンは、緩衝材などで養生をし、取扱いには十分ご注意ください。



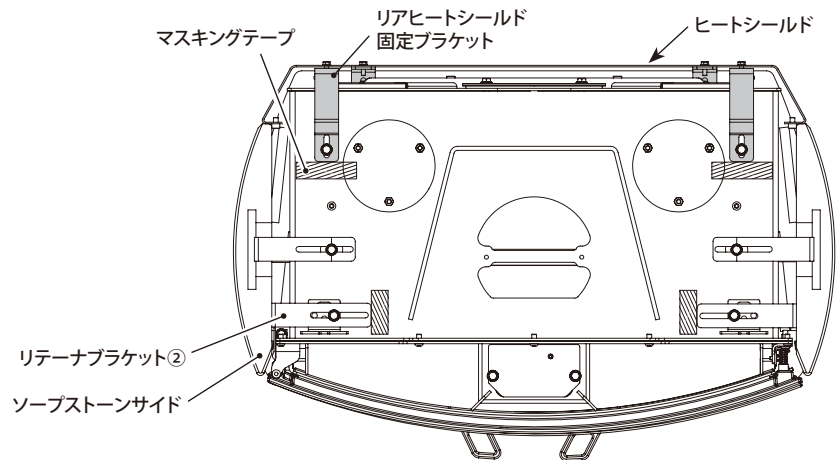
3 各ブラケットの位置に印をつける

- ・リアヒートシールド固定ブラケット
- ・リテーナブラケット②
- ・リテーナブラケット③

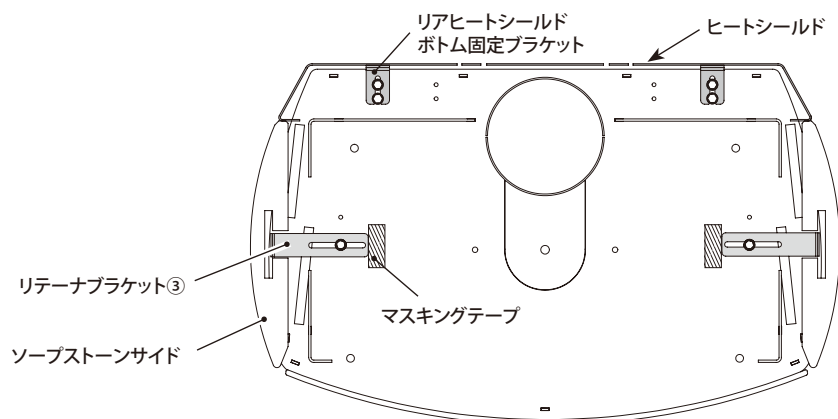
の各位置にマスキングテープを張り付けます。

こうすることで、ソープストーンを外しても、元の位置に戻すことができます。

上面図ソープストーントップを外した上部から



ボトム上部から



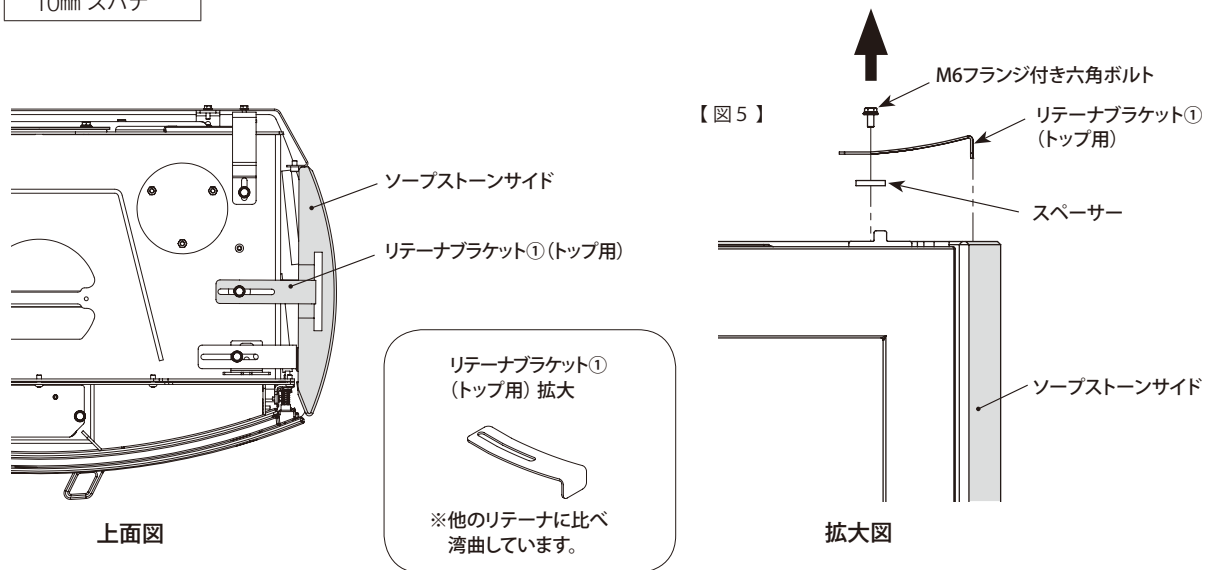
4

ソープストーンサイドを固定している上部の『リテーナブラケット(トップ用)』を本体から外す

リテーナブラケット(トップ用)を外した後、ソープストーンサイドが倒れないように、支えながら作業を行ってください。

リテーナブラケット(トップ用)は図5のようにM6フランジ付き六角ボルトを取り除いた後、外してください。

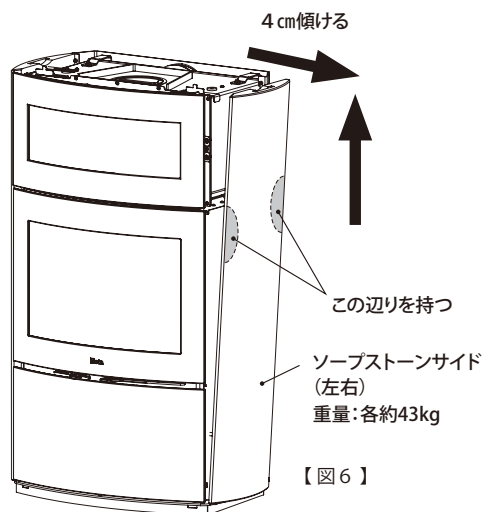
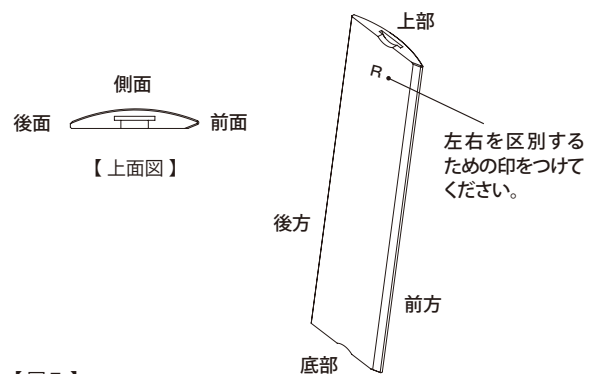
必要工具
10mm スパナ

注意 スペーサーを外した後、なくさないようにご注意ください。

5

ソープストーンサイドの上部を本体から4 cm程傾けた後、矢印の方向に持ち上げながら外す【図6】

- ・傾けすぎによるソープストーンのカケ、底部のリテーナブラケットが曲がらないようにご注意ください。
- ・ソープストーンサイドは、図6のマークの辺りをお持ちください。

**ソープストーンサイドの形状**

ソープストーンサイドは左右石目のバランスを考え組み上げています。

左右の区別を解りやすくするために、内側に左右別の印をつけてください。【図7】

6

反対側も 4 ~ 5 と同じ手順で行う

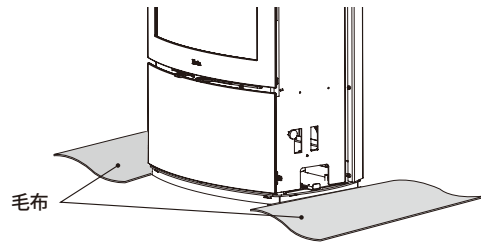
7

ストーブを移動し、本体を設置するP20 **4** 本体の設置 を参照し、作業を行ってください。

ロギ ソープストーン+オーブンの組立て (ソープストーンの取付け方)

1

ストーブの側面の床を保護材などで養生する
ソープストーンサイドを取付ける際、間違えて落下した場合の床へのキズ予防、およびソープストーンのカケ防止のため、毛布などで床を保護します。



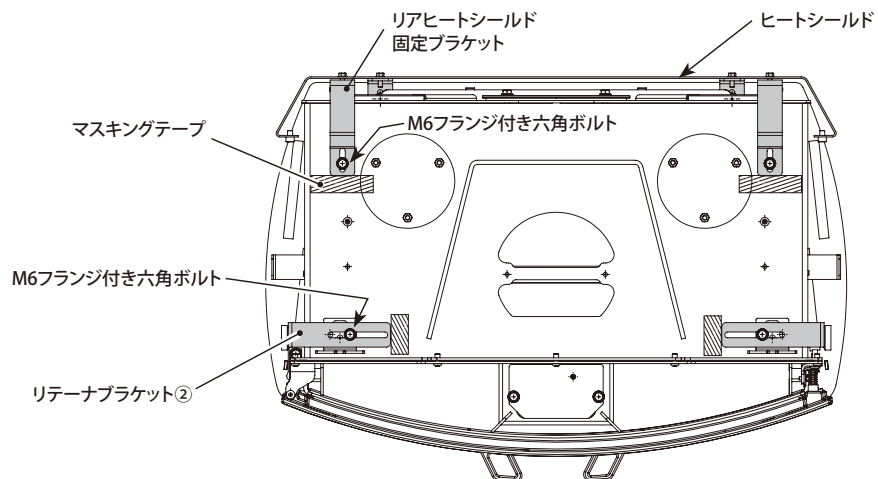
2

ヒートシールド、リテーナブラケットがズレていないか確認する

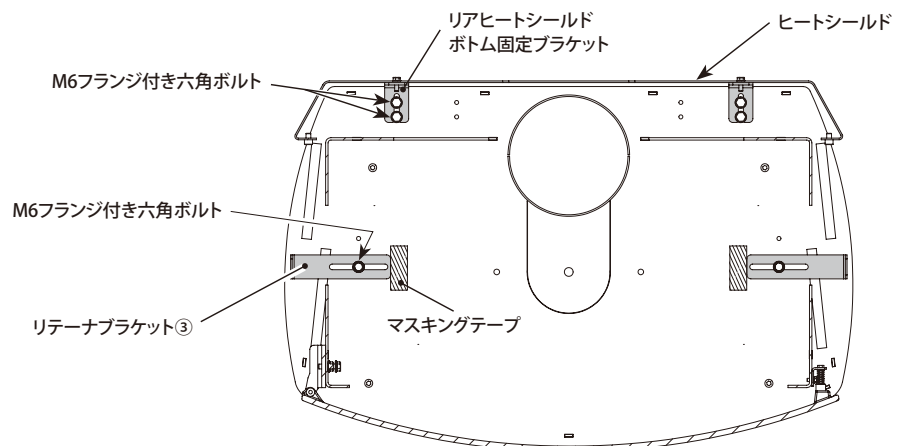
ソープストーンサイドを取付ける際、ヒートシールドがマスキングテープの場所からズレていないか確認します。ズレている場合には、図のようにM6フランジ付き六角ボルトをゆるめて修正します。正しい位置を確認したら、マスキングテープを外します。

必要工具
10mm スパナ

上面図ソープストーントップを外した上部から



ボトム上部から

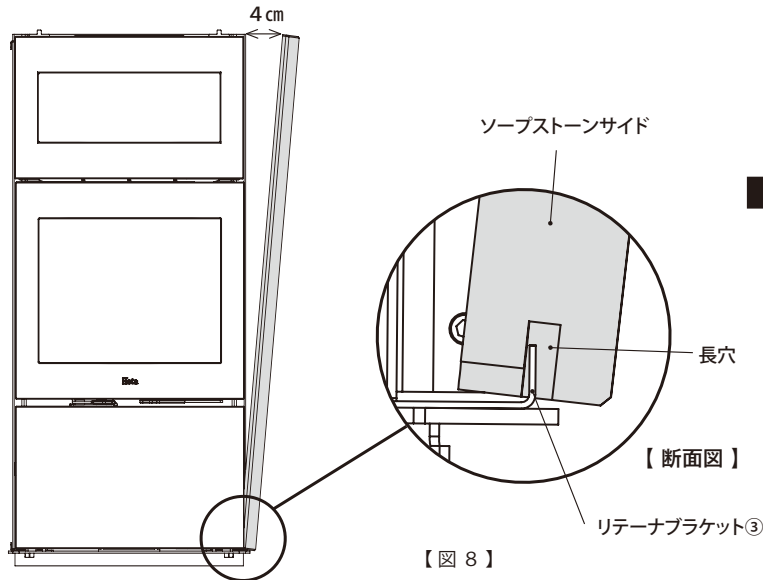


3

底部のリテーナブラケットのフックにソープストーンサイドを取付ける

ソープストーンの向きを確認して、本体に取付けます。

ボトムに取付けてあるリテーナブラケット③のフック部分にソープストーンサイドを図8のように傾けながら取付けます。
リテーナブラケットのフックがソープストーンサイドの長穴に入ったことを確認してから、垂直に立てます。



注意 ソープストーンサイドの欠け、リテーナブラケットのフックの変形などにご注意ください。

4

ソープストーンサイド上部にリテーナブラケット(トップ用)を取付ける

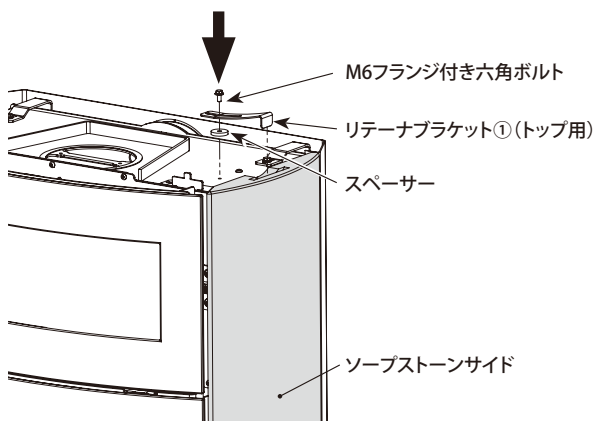
ソープストーンサイドが倒れないように、支えながら上部リテーナブラケット①(トップ用)を取付けます。

フック部分が下に向くようにして、ソープストーンサイド上部の長穴にフックを入れます。

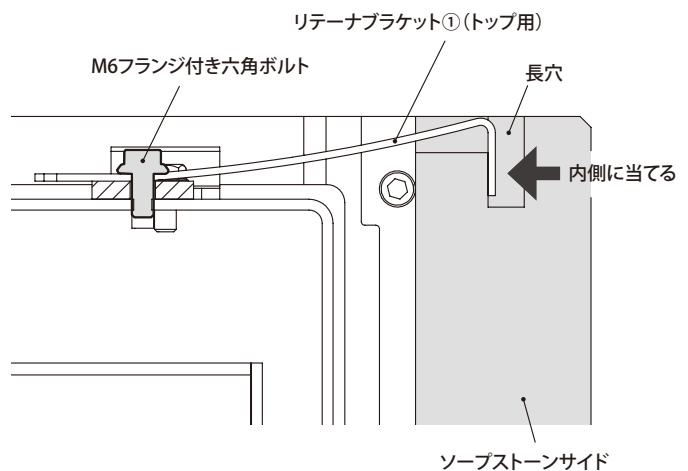
この時、図のように本体上部にM6フランジ付き六角ボルトをリテーナブラケット①(トップ用)とスペーサーに差し込み【図9】、フックの内側がソープストーンサイドに接してから、M6フランジ付き六角ボルトを締めます。

必要工具

10mm スパナ



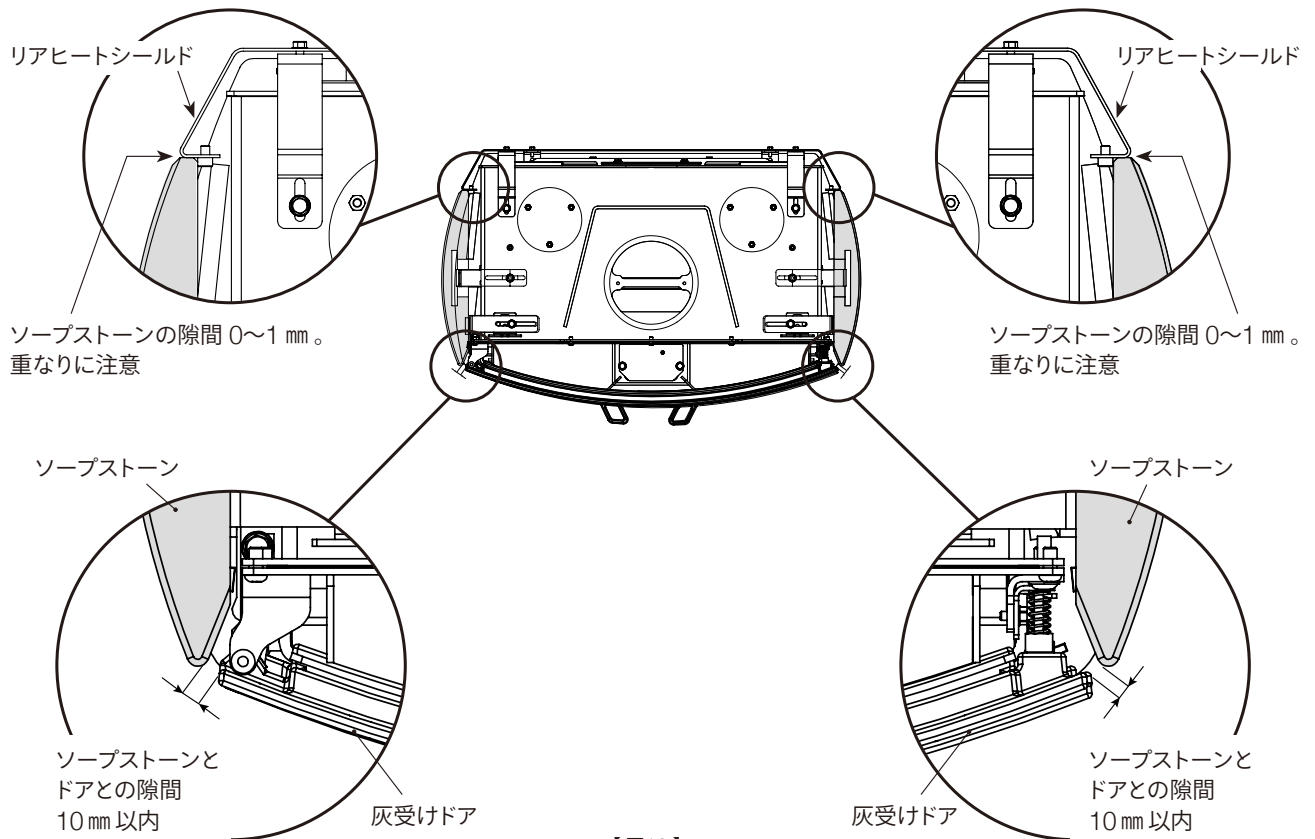
【図 9】



5

ソープストーンサイドの位置を確認する

ソープストーンサイドを側面に取付けた際、各ドアに干渉したり、リアヒートシールドとソープストーンの重なりがあってはいけません。ソープストーンサイドの上側、下側に図のように隙間があることを確認してください。



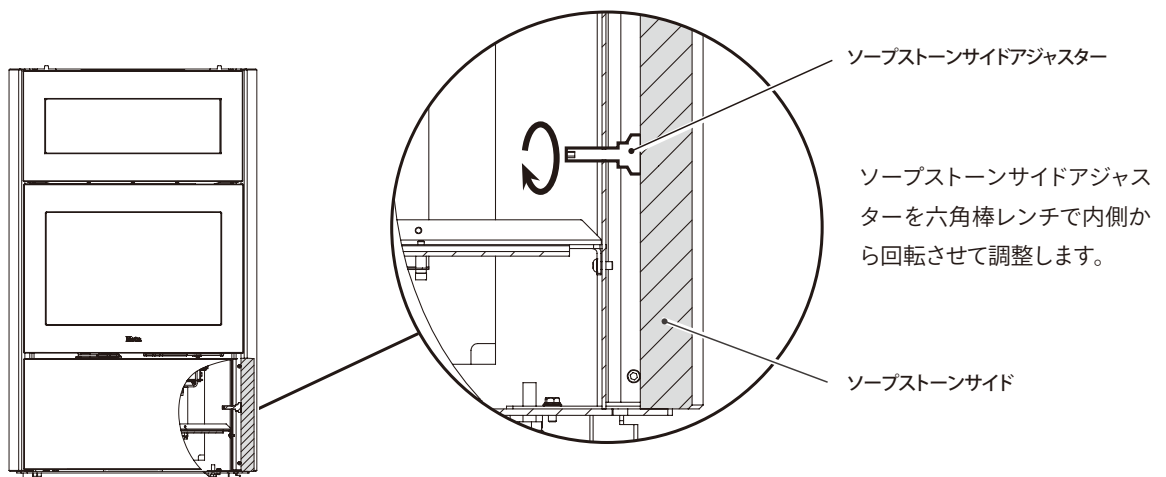
【図10】

6

ソープストーンサイド下側の調整方法

ソープストーンサイドの下側に 5 の【図10】の隙間が確認できない場合は、ソープストーンサイドアジャスターを動かして調整します。

必要工具
5番 六角棒レンチ



7

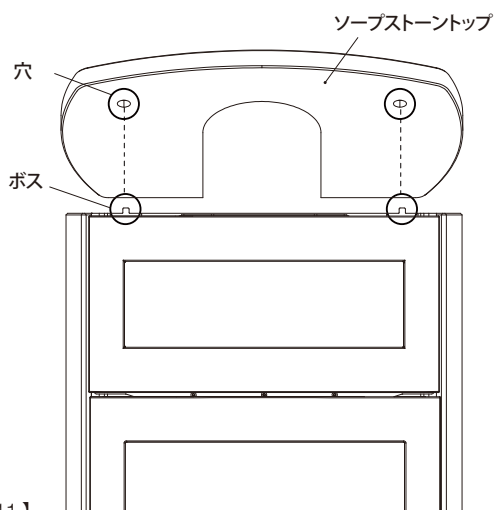
反対側のソープストーンサイドも 3 ～ 6 の順で取付ける

8

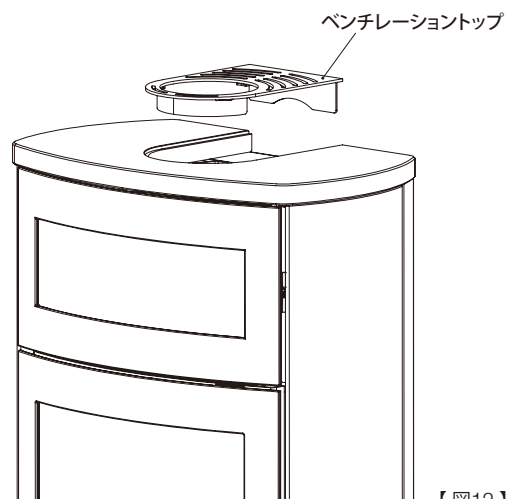
ソープストーントップ、
ベンチレーショントップを取付ける

本体の位置決め用のボスにソープストーンの2つの穴が入るようにセットしてください。【図11】

煙突穴に合わせて、ベンチレーショントップをセットしてください。【図12】



【図11】



【図12】

作業終了後、ソープストーンの表面を固く絞った濡れ布巾で拭いてください。

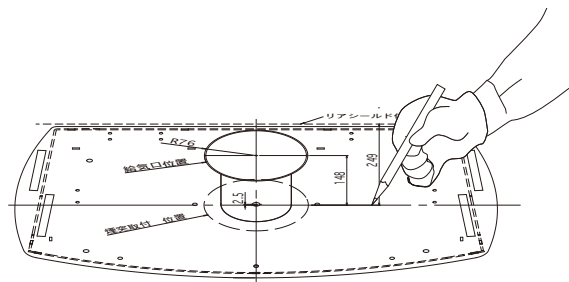
4 本体の設置

注意 ストープを設置する床は本体、および炉台の荷重を長期間十分受けられる構造としてください。

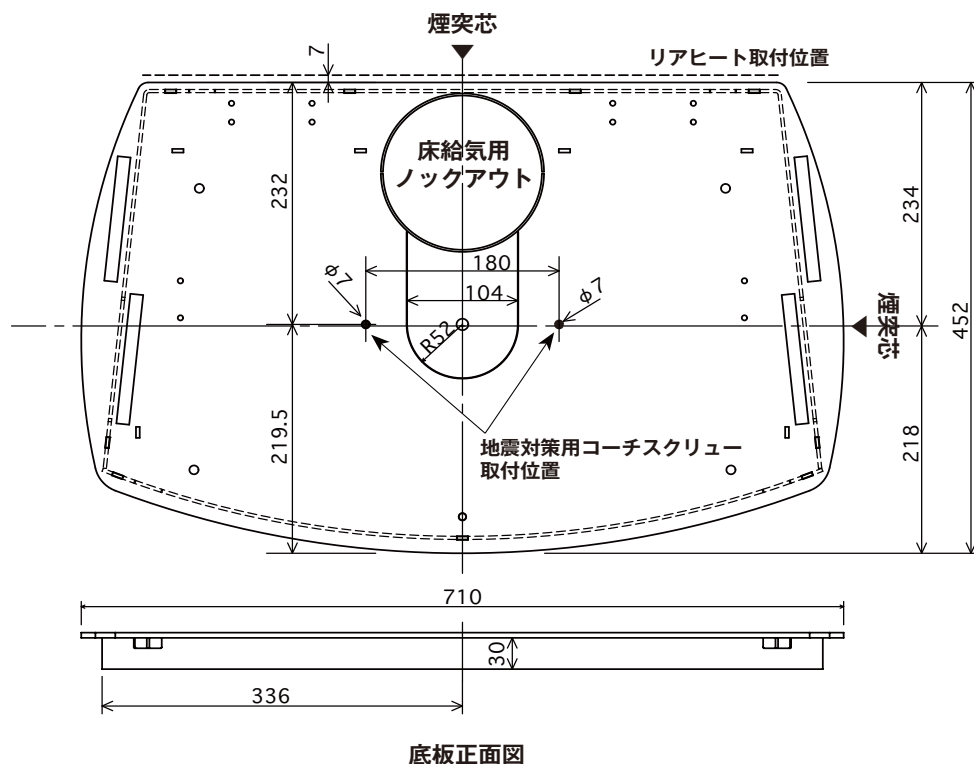
1

墨出し

付属の本体設置用テンプレートを使って、ストープの設置位置に墨出しを行います。



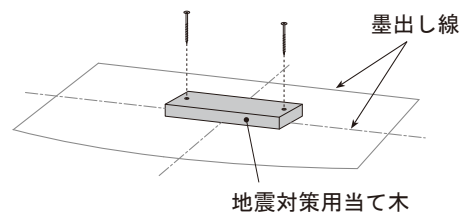
本体ボトムプレート上面図



2

地震対策用当て木の設置

煙突芯位置の墨出し線を中心に前後左右均等割付で、地震対策用の当て木を設置します。



当て木の寸法

幅 60～120mm

長さ 200～300mm

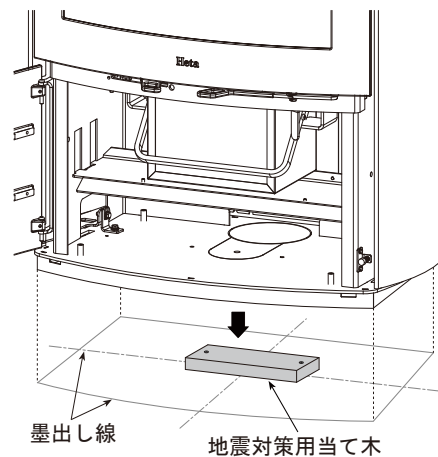
厚み 25～30mm

※地震対策用当て木は、
コーススレッド等で固定を行ってください。

3

本体の設置

ストーブ本体を墨出し線に合わせ設置します。



4

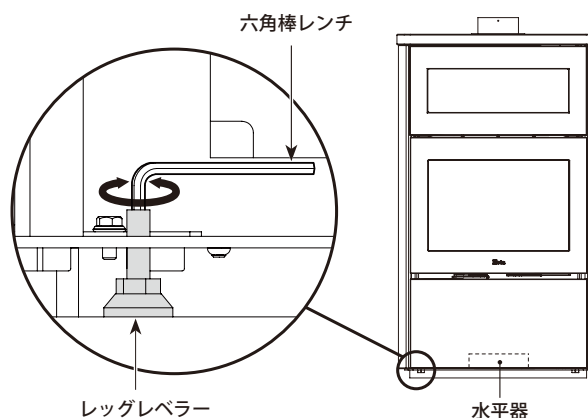
本体のレベル調整

ストーブが水平になるよう、水平器を使用してレッグレベラーで調整してください。

水平器はボトムプレートを中心に置いて確認します。

必要工具

5mm 六角棒レンチ



5

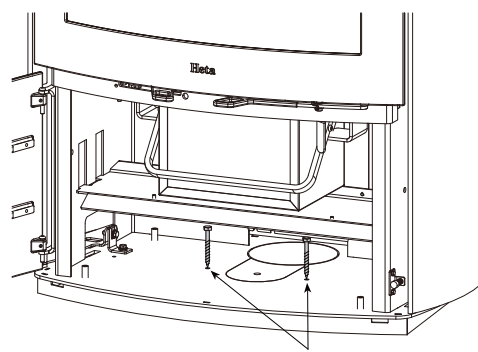
コーチスクリューの打ち込み

本体ボトムプレートにあらかじめ開いている穴にコーチスクリューを打ち込みます。コーチスクリューは、下穴を開けてから施工してください。

推奨コーチスクリュー M 6 × 65mm 以上

必要工具

10mm スパナ

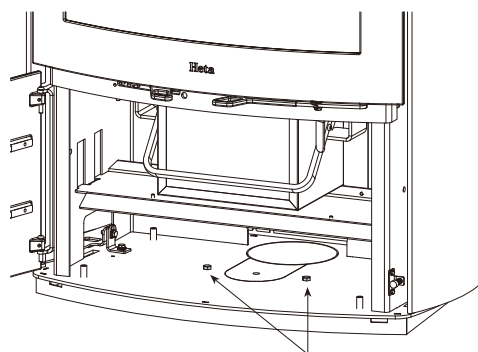


コーチスクリューM6×65 mm…2本

6

コーチスクリューの締め付け

ストーブにガタつきのないよう、コーチスクリューをしっかりと締め込みます。



コーチスクリューM 6 × 65 mm…2本

5 燃焼室の各パネル、付属品の取付け



移動で取外した各パネル、オープングリル、ツールなどの付属品をストーブに取付けます。

1 燃焼室の各パネル、バッフルパネルプロテクターを取付ける(各機体共通)

パネルの組み立て方法・・・取扱説明書 P37「●パネルの分解、組み立て手順」に従い、作業を行ってください。

注意 パネルはバーミキュライト製で破損しやすいため、組み立ては丁寧に行ってください

2 オープン内にオープングリルを収納する

3 ツールを収納する

ツールを固定している結束バンドから外し、灰受けドア裏のツールラックに収納する。

上段: シャベル



灰をすくう時に使用

中段: 火かき棒

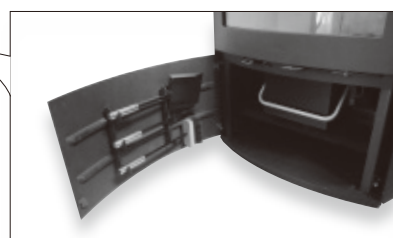


燃焼室内の薪の位置を変えたい時に使用

下段: ブラシ



ストーブまわりのお掃除に使用



灰受けドア裏のツールラックに収納

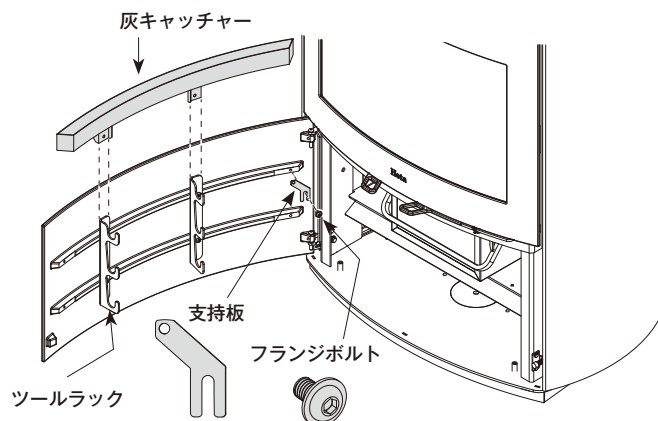
注意 各ツールは収納位置が違くと熱による変形の不具合が発生するおそれがあります。

Option

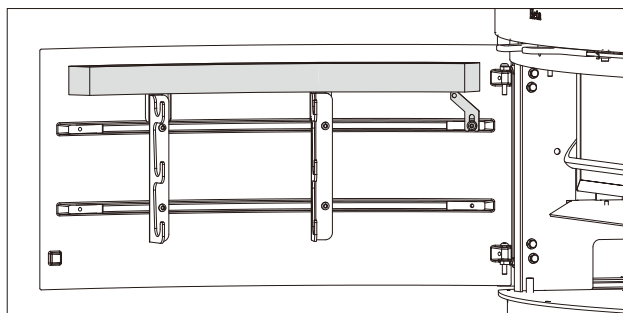
灰キャッチャーの取付け方法

オプションの LOGI 用 灰キャッチャーは、燃焼室ドアの開閉時に灰がツールや床にこぼれ落ちるのを防ぎます。

取付けは、灰受けドアにあるツールラックの金具に灰キャッチャーを上から差し込み、位置決め用の支持板をドアの内側にあいている穴に当てフランジボルトで留めます。



【完成図】



LOGI 用 灰キャッチャー

品番 20315

- サイズ: W585 × D72 × H80mm
- 重量: 600g (支持板含む)
- 材質: 鉄 ● 表面加工: 粉体塗装
- 付属品: 支持板、フランジボルト
- 日本製

6 給気用ダクトの取付け方法

外気を直接本体に入れる場合、給気用ダクト（金属等不燃材製）を以下の方法で接続してください。

壁または床にはあらかじめ開口を設けておいてください。ダクトは外気を供給できる場所まで延長してください。

給気用ダクト、レデューサー等は付属していません。

※給気用ダクト（アルミフレキシブルダクト：内径φ100mm）、ホースクリップは別途ご用意ください。

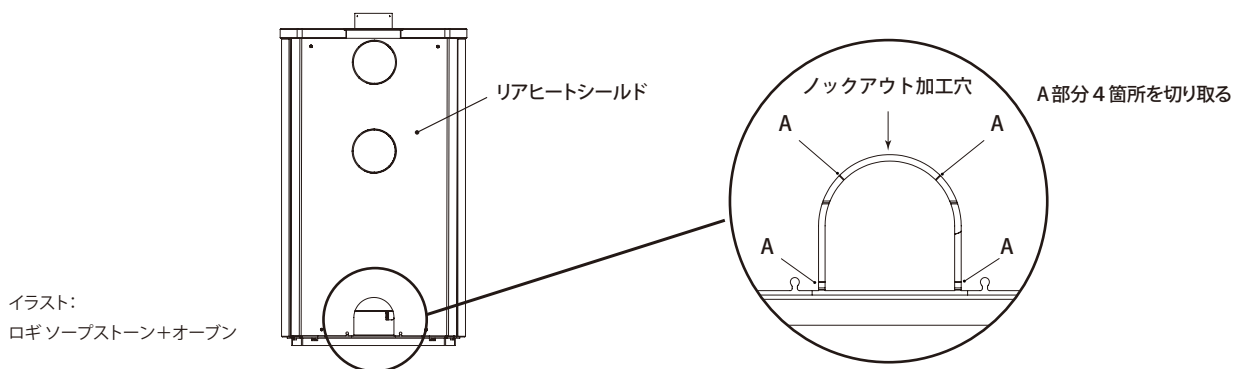
レデューサー（給気用）

品番 00500515

A：壁を貫通する場合の接続

1 ノックアウト加工穴を開く

本体背面（リアヒートシールド）下部にあるノックアウト加工穴を開きます。



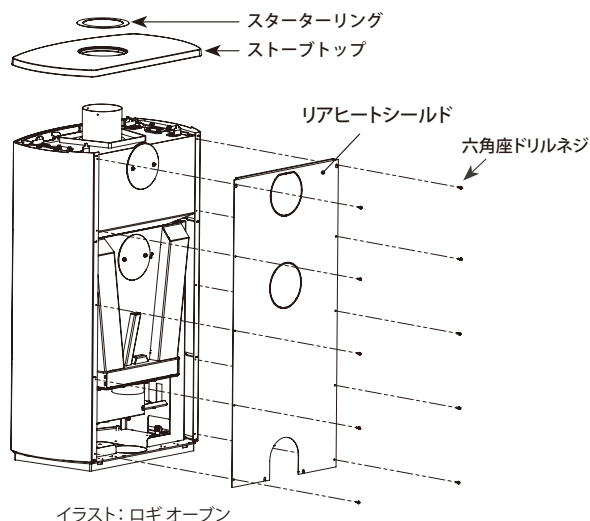
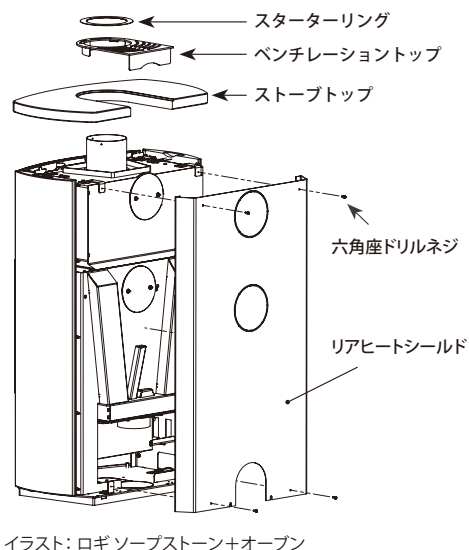
2 リアヒートシールドを外す

スターターリング、ベンチレーショントップ（ソープストーンタイプのみ）、ストーブトップ、リアヒートシールドを固定している六角座ドリルネジを取り、リアヒートシールドを外します。

※六角座ドリルネジの数／ソープストーン：4箇所、スチール10箇所

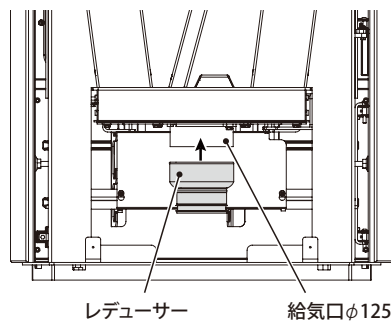
必要工具

8mm スパナ



3 レデューサーをはめ込む

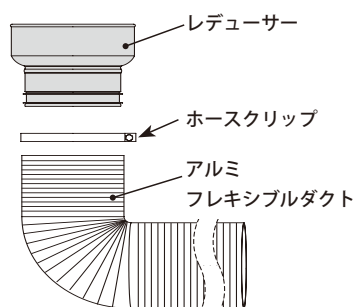
給気口径φ125mmにオプションのレデューサーをはめ込み取付けます。

**4 アルミフレキシブルダクトの端部を曲げる**

内径φ100mmのアルミフレキシブルダクトの端部を 7 の完成図のように、曲げておきます。

5 レデューサーに接続

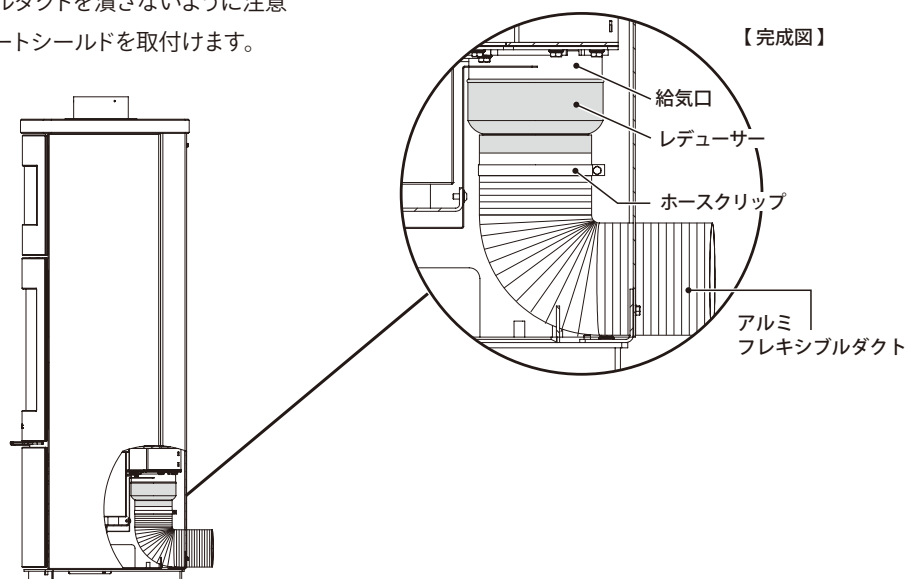
レデューサーに給気用ダクト（アルミフレキシブルダクト）を3cm以上差し込み、接続します。

**6 ホースクリップで固定する 【完成図】**

ダクトは、外気に面したところまで延長させます。

7 リアヒートシールドを取付ける

アルミフレキシブルダクトを潰さないように注意しながら、リアヒートシールドを取付けます。



B：床を貫通する場合の接続

1

床の開口に本体底面開口部を合わせる

あらかじめ、床貫通位置にφ100のアルミフレキシブルダクトが通るφ110mm程度の開口を開け、炉台、および床の開口にストーブ本体底面開口部を合わせ設置します。

2

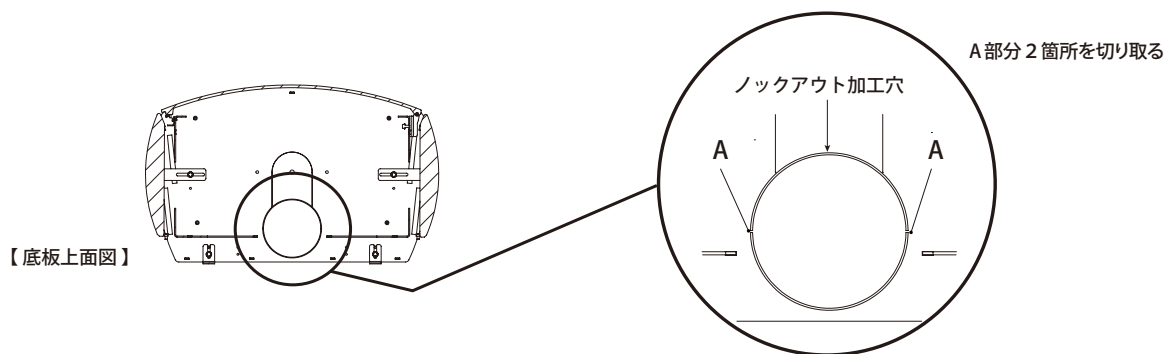
リアヒートシールドを外す

スターターリング、ベンチレーショントップ(ソープストーンタイプのみ)、ストーブトップ、リアヒートシールドを固定している六角座ドリルネジを取り、リアヒートシールドを外します。

※ 六角座ドリルネジの数/ソープストーン：4箇所、スチール10箇所 (P23 2の図参照)

3

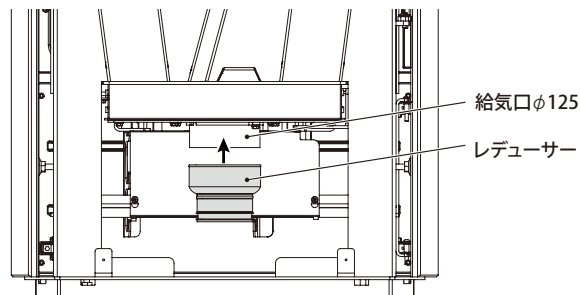
ボトムプレートにある給気口のノックアウト加工の穴を開く



4

レデューサーをはめ込む

給気口径φ125mmにオプションのレデューサーをはめ込みます。

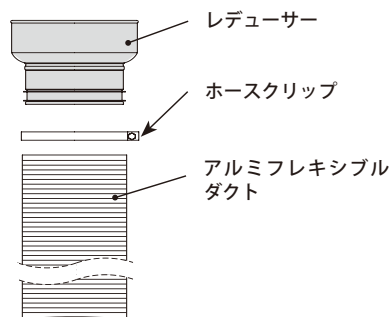


5

ホースクリップで固定する

レデューサーに内径φ100mmのアルミフレキシブルダクトを3cm以上差し込み、ホースクリップで固定します。

ダクトは、外気に面したところまで延長させます。



6

リアヒートシールドを取付ける

7 煙突の設置

スターターの固定方法

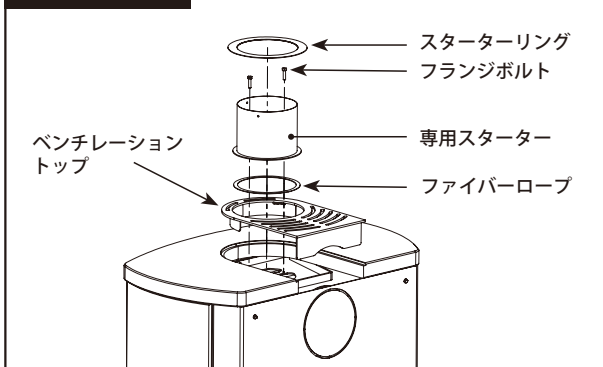
煙突に接続するために、付属のスターターをイラストのように取付けます。

ファイバーロープを用いて、排気漏れがないよう隙間なく取付けてください。

必要工具

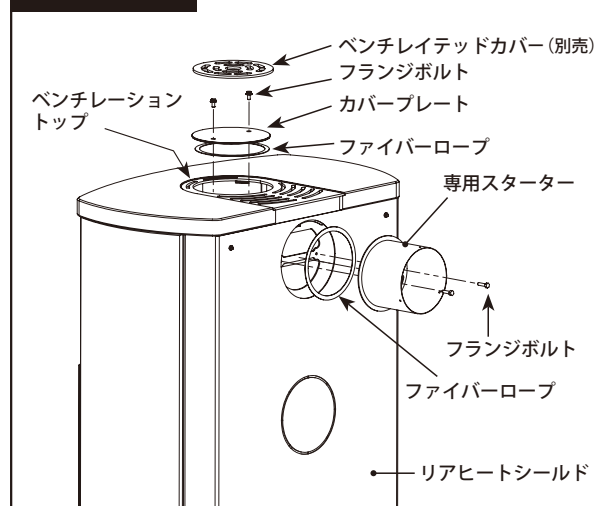
10mm スパナ

垂直接続の場合



イラスト：ロギ ソープストーン+オープン

水平接続の場合



- ・リアヒートシールド上部のノックアウト穴を開いたのち、接続します。
- ・トップを塞ぐカバープレートは、背面に接続していたものをそのまま使用し、ベンチレーショントップの上にベンチレイトッドカバーを載せます。

イラスト：ロギ ソープストーン+オープン

煙突の仕様

● シングル煙突

材質は厚み0.6mm 以上のステンレス製、もしくは鉄製で、継目は溶接、またはハゼ組みのものを使用してください。

シングル煙突の長さの目安

室内に使用するシングル煙突の長さは、建物の断熱性能を考慮した上で、本体より最長2.4mまでを目安としてください。

● 断熱二重煙突

衝撃テスト認定品 (UL103 “Type HT” もしくは BS EN 1856-1 T400 以上)、もしくは同等の断熱性能を有するものであって、材質が SUS304 以上の耐酸性、耐食性のある断熱二重煙突を使用してください。

煙突の立ち上がり・曲がり・横引きの目安

- ・煙突は排気抵抗を考慮し、できるだけストレートに設置してください。
- ・立ち上がりは本体接続部から4m 以上必要です。
- ・曲がりの箇所は4箇所までとし、角度の合計は270°以内を目安としてください。
- ・横引きの長さは500mm 以内を目安としてください。

煙突の支持

- ・支持具を固定する際は建築物の構造、取付け面の仕上げ、煙突重量、および気象条件等の外力を考慮し、必要に応じて建築工事による下地補強を行い、確実に固定してください。
- ・システム全体で必ず1箇所以上の煙突荷重受けを断熱二重煙突部分に設置し、かつ振れ止めは3.5m以内の間隔で固定してください。
- ・支持部分から煙突頂部までの間は1.5m以内にしてください。
- ・支持具は煙突を長期間保持できるように強固に固定し、材質は腐食を考慮しSUS304、または同等の性能にしてください。

荷重受

荷重受用の部材はM 8 以上のステンレス製六角コーチスクリューを4本以上にて、建築躯体に固定してください。

振れ止め

振れ止め用の部材は、屋外にM 8 以上、屋内についてはM 6 以上のステンレス製六角コーチスクリューを2本以上にて、建築躯体に固定してください。

煙突の接続

- ・煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないように接続してください。
- ・他の機器が接続されている煙突には接続しないでください。

煙突の雨仕舞と雪害対策

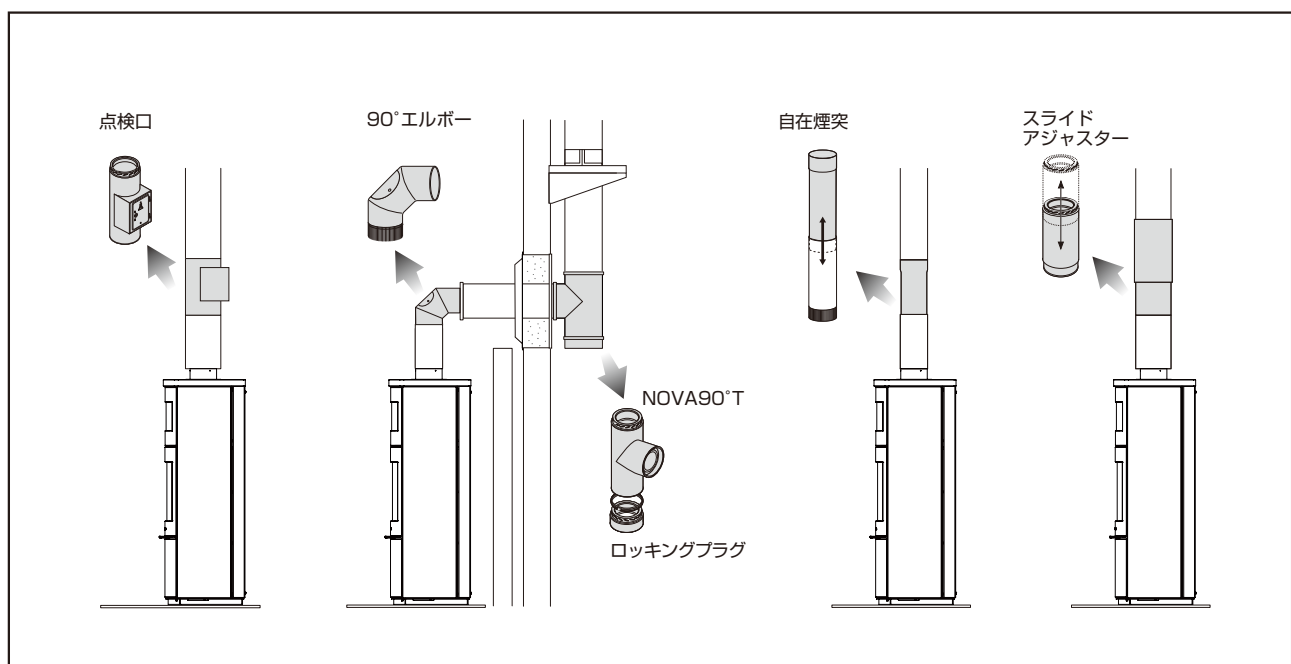
- ・屋外貫通部、および煙突の曲がり部、接続箇所は雨の浸入を十分考慮し、シール材等で防水処理を行ってください。
- ・雨仕舞いは一次防水にとどまらず、必ず二次防水の処理を併せて行ってください。
- ・積雪地域では雪割りや雪止め等の金具を設け、煙突、および雨仕舞い部材の破損を防止してください。

既存の煙突

既存の煙突にストーブを接続する場合は、原則として1年以上使用した煙突、煙突トップ、固定金具は新品と交換してください。ただし煙突、煙突トップ、固定金具の材質がSUS304、または同等以上の耐酸性、耐食性を有する材質で、穴あき・サビ・亀裂・閉塞・接続部の外れなど、安全に問題がないことが確認された場合は、既存の煙突にストーブを接続することができます。

煙突の点検口

点検口は点検、メンテナンスが行いやすく、かつ容易に近づくことができる場所に設けてください。



8 チェックリスト ⚙️⚙️



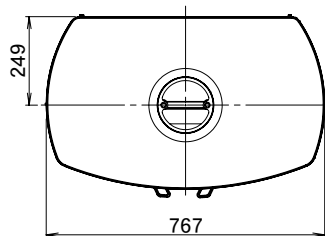
工事終了後、以下の項目に従い、工事内容を再確認してください。

	点検項目	点検内容	チェック
ストーブ、およびその周辺	床の保護	ストーブを設置する床の保護範囲は十分ですか。 また、防火上有効な措置がされていますか。	
	可燃物との離隔距離	ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	換気設備と燃焼空気	燃焼に必要な空気を取込みますか。換気は行えますか。	
	保守、管理上の空間	点検、修理に必要な空間はありますか。	
	水平・安定設置	ストーブは水平に設置され、がたつきはないですか。 地震時の転倒防止対策として、床に固定されていますか。	
	備品	備品は全て取付けされていますか。	
煙突	可燃物との離隔距離	煙突から周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	頂部の高さ	煙突の高さは十分ですか。	
	固定、接続	煙突は確実に接続され、堅固に固定金具で固定されていますか。	
	保守、メンテナンス	煙突の保守、メンテナンスが容易に行える設置になっていますか。	

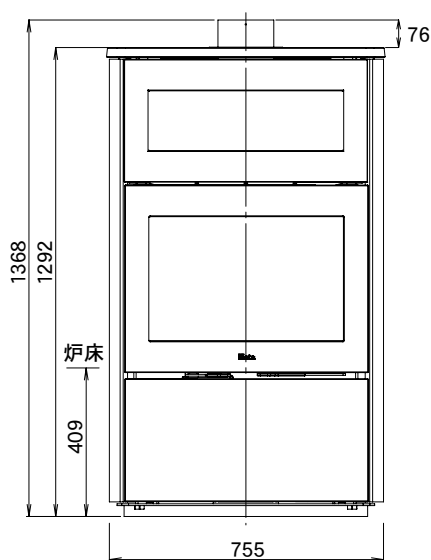
9 本体寸法図

LOGI oven

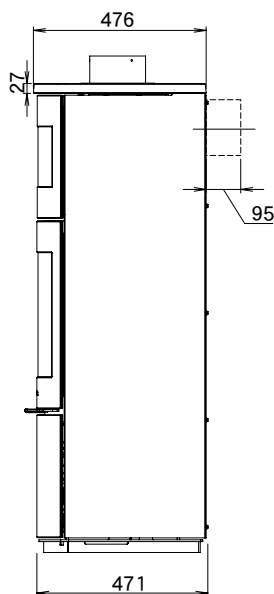
(単位:mm)



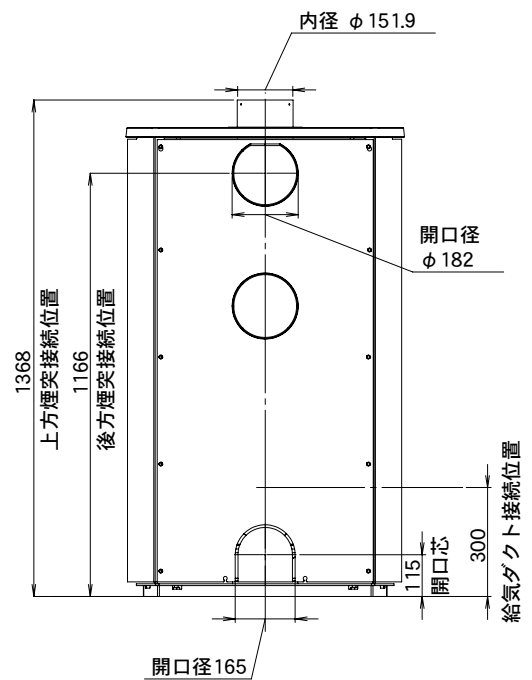
平面図



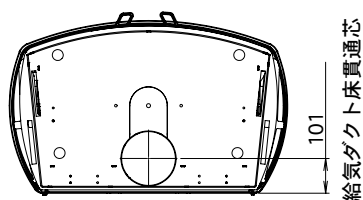
正面図



側面図

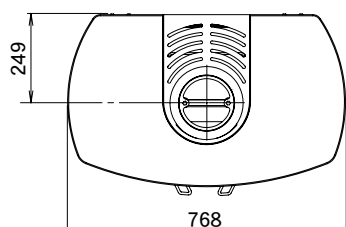


背面図

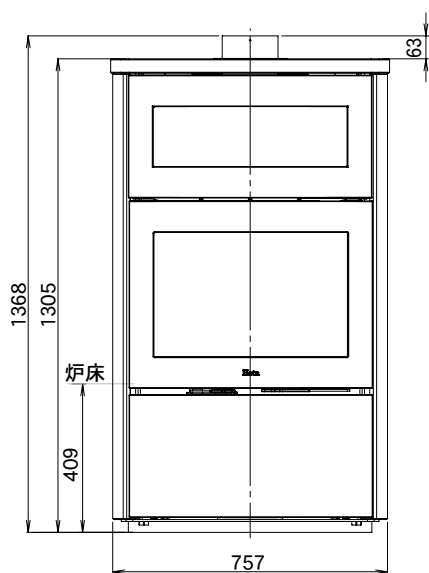


底面図

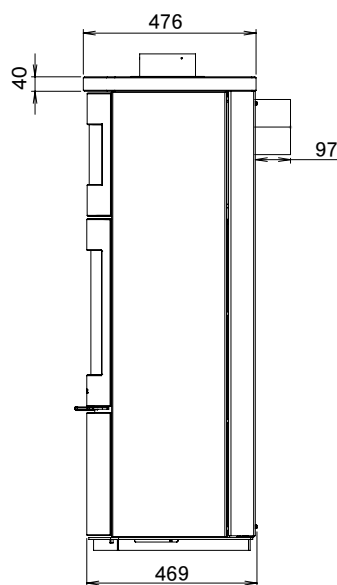
本体寸法図



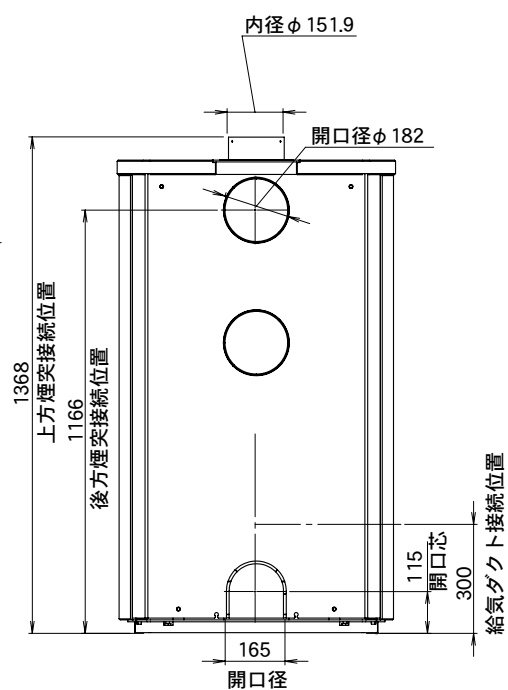
平面図



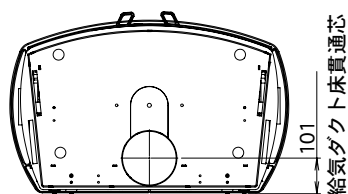
正面図



側面図



背面図



底面図



ファイヤーサイド株式会社
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871
☎0120-46-7877
<https://www.firesidestove.com>